

有田幹雄先生

はじめに

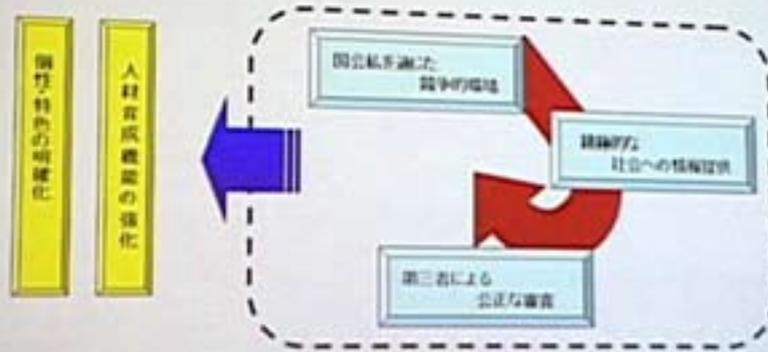
仙波学生部長：皆さん、こんにちは。今、紹介されました、学生部長を拝命しております仙波と申します。よろしくお願ひします。

それでは、支援プログラムの説明の部に入りたいと思います。まず最初は、現代的教育ニーズ取組支援プログラムという形で募集されまして、これは社会的要請の強い政策課題にどのように対応していくかということで、各大学が応募したわけですが、その中で特に優れた教育プロジェクトを選定して、これからの時代を担う優れた人材の養成を推進するということを目的とするものであります。本学からは保健看護学部から地域活性化への貢献というテーマを取り上げ、申請をし、「地域と連携した健康づくりカリキュラム」という課題で採択されております。この取組は社会のニーズに応える人材育成教育とともに、地域活性化を図ろうとする取組であります。審査委員会の方からは本取組は、和歌山県立医科大学保健看護学科の学生が1年次から4年次までの全学年を通して、都市近郊から無医地区まで広い範囲に住む妊娠期から介護までの全ライフステージを対象とし、訪問看護などにより住民の健康に直接触れながら、実地に保健看護を学ぶのは現代的教育ニーズに対応した取組といえるでしょう。また、地域住民にとっても大きな貢献となるにちがひありません、と高く評価されております。それでは保健看護学部長の有田幹雄より説明をいたします。よろしくお願ひします。



有田保健看護学部長：ご紹介頂きました、保健看護学部の学部長の有田でございます。今、仙波学生部長からご紹介ございましたとおり、保健看護学部の取組が現代GPに採択されたんですが、保健看護学部は平成16年度、今から2年半ほど前に、看護短大から設置形態を変え、4年制になりました。その時に創りました保健看護学部の理念、あるいはカリキュラム等を書いて申請したところ、この度こういうふうな採択されたということでございます。それでは、次のスライドです。これが附属病院、これが医学部、保健看護学部はこの辺で、少し距離が離れていて、歩いて10分から15分ほどかかるところにあるんですけども、附属病院は医学部の附属病院でもありますし、保健看護学部の附属病院としても位置付けてあります。

「大学等」が実施する教育改革の取組の中から、優れた取組を選び、支援するとともに、その取組について広く社会に情報提供を行うことにより、他の大学等が選ばれた取組を参考にしながら、教育改革に取り組むことを促進し、大学教育改革をすすめています。この「優れた取組」を「Good Practice」と呼んでいます。



これが先ほどありましたが、G P、グッドプラクティスとは何かというのが書いてあります。大学等が実施する教育改革の取組の中から優れた取組を選んで支援するとともに、その取組について広く社会に情報提供を行う。他の大学が選ばれた取組を参考にしながら、全体的な財産として、それを広く日本国内に普及させたいということで、大学教育改革の一環としてあります。3つポイントがありまして、国立、公立、私立を通じた競争的環境、国公私を関係なく競争させる、第三者による公正な審査を通して社会へ情報提供をする。こういうふうな3つのポイントがございまして、教育G Pでは約20パーセント、特色あるG Pでは約15パーセントが選ばれるということになっております。これを通して人材育成機能の強化であり、個性、特色の明確化を図る、というのが目的となっております。

## 現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」では、各種審議会からの提言などを踏まえ、社会的要請の強い政策課題(地域活性化への貢献、知的財産関連教育など)に関するテーマを設定し、これに対して各大学、短期大学、高等専門学校が計画している取組の中から、国公私を通じて優れた取組を選び、サポートします。また、選ばれた取組を社会に広く情報提供し、高等教育全体の活性化を促しています。

次のスライドです。そのなかでも現代的教育ニーズ取組支援プログラム、現代GPというのは現代的な教育ニーズ取組、社会的要請の強い政策課題、特に、私どもは地域活性化への貢献というふうなことにに対して申請しまして、選ばれたということでございます。

## 平成18年度「現代的教育ニーズ支援プログラム (現代GP)」

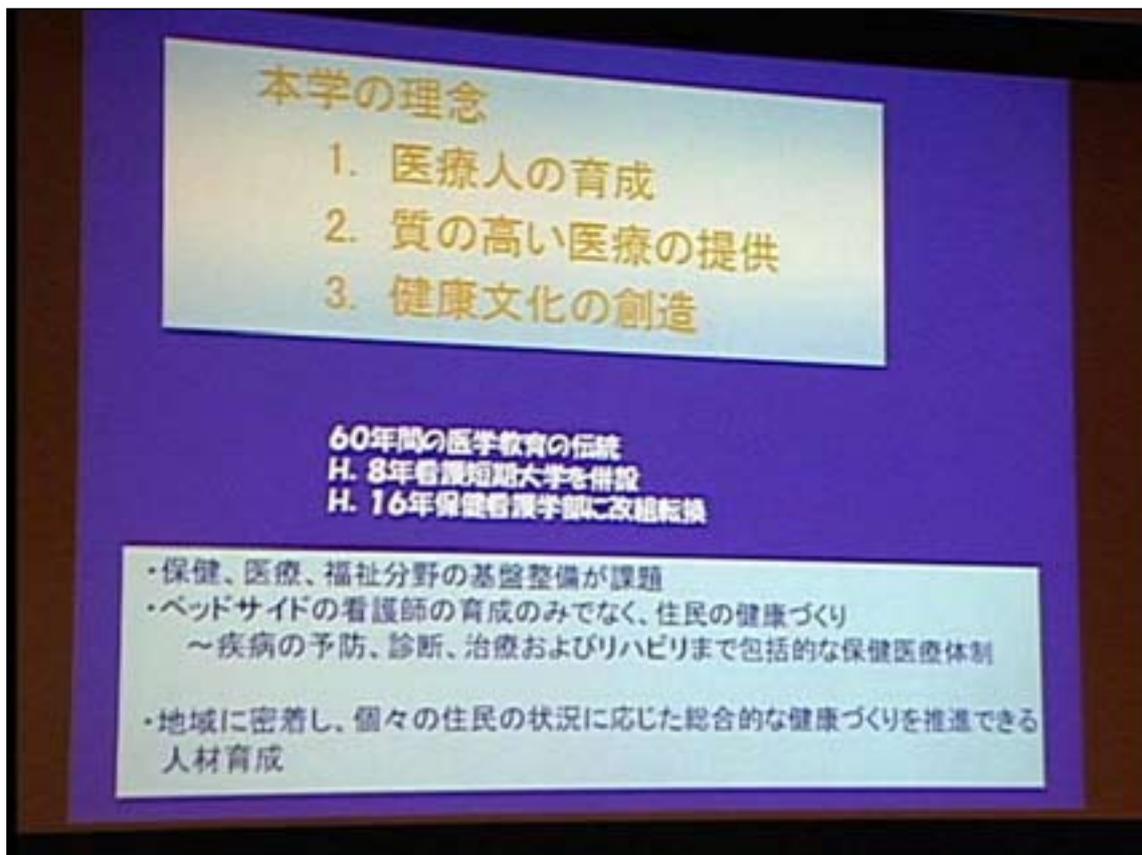
- 取組名称: 地域活性化への貢献(地元型)  
「地域と連携した健康づくりカリキュラム」

|      |       |
|------|-------|
| 申請件数 | 565   |
| 選定件数 | 112   |
| 選定率  | 19.8% |

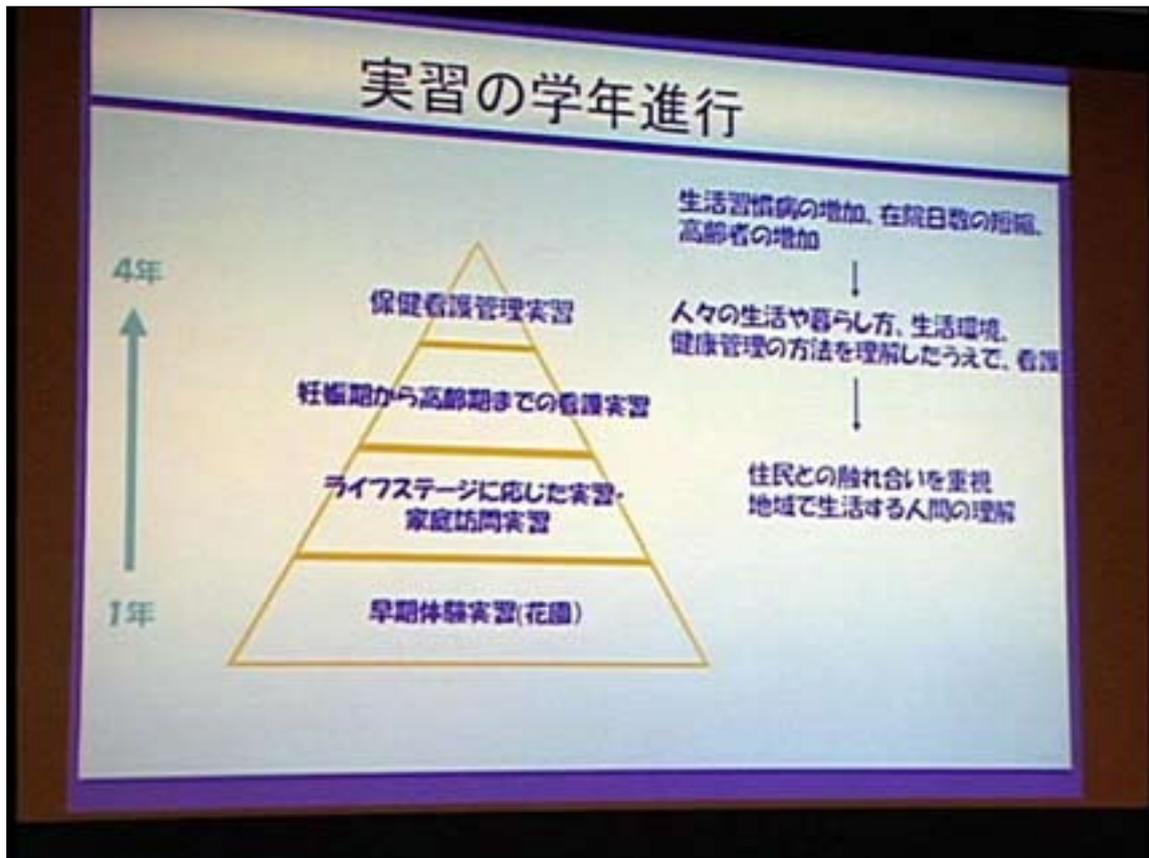
### 大学(学士過程)

|      |       |
|------|-------|
| 申請件数 | 442   |
| 選定件数 | 89    |
| 選定率  | 20.1% |

それでは、次のスライドです。今年の現代GPではですね、申請件数が565件のうち、112件選定されまして、約19.8パーセントの中に残ったということです。タイトルは「地域と連携した健康づくりカリキュラム」でございます。



次のスライドをお願いします。本学の理念ですが、ひとつは非常に変化する状況の中で対応して、的確に判断できる質の高い医療人を育成すると、もうひとつは地域の中核医療機関として質の高い医療を提供しておりますし、また、地域と密接に連携しまして、県民の皆様方の健康文化の創造に寄与したいと考えております。特に、この健康づくりに対して提案させていただきました。保健看護学部という名称なのですが、これは全国の国公立大学の初めての名称でして、通常であれば医学部看護学科とか看護学部というのが多いのですが、私どもは保健看護学部というふうに学部名をつくりました。それはですね、単なるベッドサイドの看護師さんを育成するというわけではなくて、保健医療福祉分野のすべてをトータルして見ることができるような人材育成ですね。こういう住民の健康づくり、疾病の予防から診断治療、リハビリまで包括的な保健医療体制に耐えることの出来る様な人材を育成したいな、というふうにして、今、人材育成に取り組んでいるところであります。次、お願いします。学長が先ほど申しましたように、昭和20年に医学部ができて、医学専門学校なんですけれど、それから60年間の質の高い医師の教育を行ってきたんですけども、平成8年に看護短大を設置して、平成16年には保健看護学部へ改組転換しております。



次のスライドです。取組の実際ですけれども、まず入学して1年の時には早期体験実習のということで無医村である花園村へ学生、全教員とも宿泊研修しております。そして2年目には、ライフステージに応じた実習ということで家庭訪問実習も行っているんですが、妊産婦から保育園、幼稚園、小学校、中学校、さらには企業の方にも行かせていただいて、企業で働いている人の生活を見る、そして高齢者まで見ていくと。そして3年目では、主に附属病院を中心として疾病を持った患者さんの看護実習、4年目では、それを統括する意味で保健看護管理実習を行っております。1年から4年まで連携して行うということで、人々の生活だとか暮らし方、生活環境を見据える。そして病気の疾病の人も診るということで住民とのふれあいを重視する、地域で生活する人間を理解する、ということを実習の大きな習得課題としております。



次のスライドです。早期体験実習、花園村と言いまして、高野山の花を奉納するような場所で6年ほど前から行きだしたんですけれども、私どもが最初に行ったときは650人ほど住民の方がいらっしゃったんですが、現在は530人ということで、高齢化率が非常に高く、43パーセント。医療機関のない山間の地域である。こういうところに学生さんが1年目に入ってすぐに連れて行って宿泊研修しております。村の方は、不便ではあるんですが、健康に注意して自分らしく生活しております。非常に生き生きとして人間らしさを保ちながら生きがいを持って生活していると、そういう人たちの姿を見せていただく。ということで、村民の方は毎年、学生が来るということを非常に期待しておられます。

## 発達保健実習、家庭訪問演習

- ・妊娠期から高齢者まで全年齢(ライフステージ)を対象
  - ・人と人とのつながり
  - ・仕事に対する責任感
  - ・職種や地域の健康問題・疾病構造
  - ・座学では経験できない課題
- ・家庭訪問～生活環境の理解
  - ・家族のあり方～親子関係
  - ・様々な家族
  - ・社会の中での保健

高齢者施設  
漁業・漆器組合  
企業・健康センター  
小学校・中学校  
保育園  
妊娠期

次のスライドです。その次、2年目の発達保健実習と家庭訪問演習です。妊娠期から高齢者まで全年齢ライフステージを対象として、人と人とのつながり、これが一番大事ですね。仕事に対する責任感とか職種や地域の健康問題、疾病構造を学ぶ。座学では経験できない課題に対して対処するというふうになっています。次のところ行きます。妊娠期ですね。マタニティスイミングを生かしたもの。保育園、幼稚園、小学校、中学校にも行きます。小学校、中学校ではですね、今、非常に子供たちが命の問題でいじめとかで色んなことが問題となっていますが、子供たちに命の大切さを教え、お互いに双方向で交流が出来ればいいなというふうを考えております。企業や健康センターにも行きますし、高齢者では漁業組合、漆器組合、高齢者の施設に行く。こういうところでは生きがいについて学ばせていただくというふうにしております。

## 独創性

- ・ 看護教育の基盤として生活、暮らし方、生活環境や健康管理方法の理解を掲げた点。
- ・ 地域の人々との交流～生活習慣、環境が具体的イメージ
- ・ 生活指導や生活に応じた看護が可能
- ・ 1～4年まで段階的に進行

実習施設:市町村保健センター、スポーツ施設、保育所、  
小・中学校、企業、漁業組合、漆器組合、高齢者施設  
など80箇所以上

- ・ 全教員が参加
- ・ 附属病院は保健看護学部の附属病院としても位置づけ。

はい、次のスライドです。独創性としてはですね、看護教育の基盤として、生活や暮らし方、生活環境、健康管理方法の理解を掲げた点、それから地域の人々と交流する生活習慣とか環境がイメージされるんじゃないかということで、生活、生きがいとか暮らし方について看護を通してみたいというふうなことで、県下80箇所以上に全教員が参加するというふうなことで、訪問させていただきたいというふうな考えております。今年はずいぶん、カリキュラムの中に入りませんでしたので、県下4地区、土日なんですけれども、ひとつは先ほどの花園、もうひとつはかつらぎの柿農家、そして、もうひとつはみなべ町、みなべは和歌山県の中でも医療費が最も低いんですね。長野県に匹敵するくらい老人医療費が低いと。それは非常に保健活動が上手いこといってますので、そのところの保健師さんを訪ね、その健康管理について学びたいな、と。そして、もうひとつは南で、那智勝浦についても少し訪問させていただこうというふうな考えております。

## 期待できる成果

1. 地域に対する理解を深め、保健・医療・福祉の幅広い視点を持つ総合的な健康づくりを推進できる人材を育成することにより、卒業生の地域への定着が期待される。
2. 教員・実習先医療機関スタッフの質の向上：
  - ・教員には貴重な生涯学習の場となる。
  - ・地域と大学の連携による地域に特有な問題の共同研究の促進などにより、地域の医療・保健の活性化が図られる。
3. 地域住民の健康増進や疾病予防に寄与し、住民に安心感を与え、地域の活性化に貢献することが期待される。

次のスライドです。期待できる成果についてですが、地域に対する理解を深め、保健医療福祉の幅広い視点を持つ、総合的な健康づくりを推進することが出来る人材を育成することにより、卒業生の地域への定着が期待できる、と考えております。次に、教員および実習先医療機関のスタッフの質の向上。教員には貴重な生涯学習の場となりますし、地域と大学との連携によって、地域に特有な問題の共同研究の促進などによって、地域の医療、保健の活性化が図られるんじゃないかというふうに考えております。もうひとつ、3番目は、地域住民の健康増進や疾病予防に寄与し、住民に安心感を与え、地域の活性化に貢献することが期待されるというふうに考えております。

**保健看護学部**



**夏陀菟草**



上松右二、池内佳子、志波 充、山田和子、庄司禎夫、鈴木幸子、森岡郁晴、  
 福田春枝、柳川敏彦、内海みよ子、水主千鶴子、西村賀子、上田雅代子、  
 辻 幸代、水田真由美、前馬理恵、山本明弘、服部園美、辻久美子、辻あさみ

池田敬子、石井敬子、北野景子、坂本由希子、中納美智保、畑野富美、  
 平尾恭子、角 真理、松下直子、尾崎倫子

以上、教育現代 GP についてご説明しましたが、まだまだ今は、保健看護学部の設置理念であり、カリキュラムを作った段階のところを話しただけです。今回採択されたということで、もっとより地域貢献ができるように、双方向で教育させていただく。ただ実習に行くだけではあまり地域貢献にはなりませんので、何とかして健康づくりに生かすことによって和歌山の地域医療の貢献に役立っていければ良いな、というふうに考えておりますので、またご支援のほどよろしく願いいたします。以上です。

おわりに

仙波学生部長：有田先生、どうもありがとうございました。